

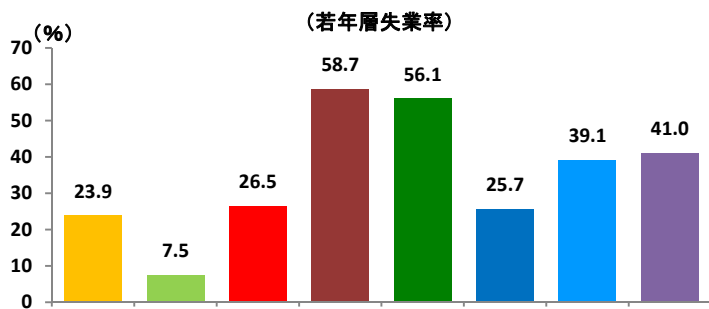
～直近のユーロ圏の経済動向について～

ポイント

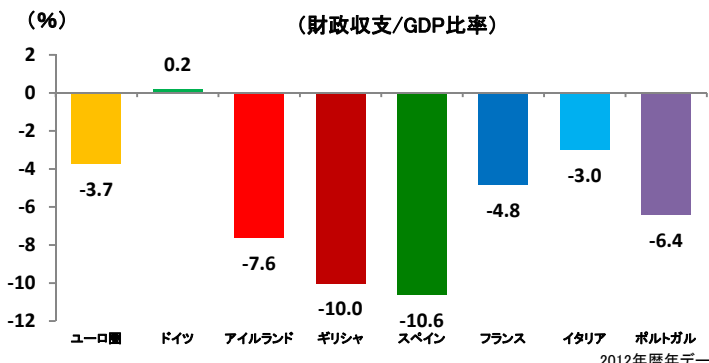
- ◆ ユーロ圏経済は緩やかながらも回復の過程にあると考えられます。欧州中央銀行(ECB)は、「政策金利は長期にわたり、現行水準かそれよりも低い水準に留まる」とし、金融政策で景気の下支えを行なっていく方針です。
- ◆ ユーロ圏の若年層失業率や財政収支(赤字)対GDP比率の水準はまだ高いものの、直近のユーロ圏PMI総合指数やドイツifo企業景況感指数(現況指数)には、底打ち感がみられます。
- ◆ ECBの低金利政策継続により、ユーロ圏の景気は緩やかな回復を辿りつつあります。景気回復に伴い、株式市場も緩やかに上昇するものとみられます。

- ◆ 欧州中央銀行(ECB)は、8月の政策理事会において、先月の理事会で導入した「政策金利は長期にわたり、現在の水準かそれよりも低い水準に留まる」というフォワード・ガイダンスを全会一致で再確認しました。(図表1)
- ◆ 7月のユーロ圏PMI(購買担当者景気指数)(総合)は、50.5と前月の48.7から上昇しました。また、ドイツifo企業景況感指数(現況指数)は、110.1と前月の109.4から上昇し、底打ち感がみられます。(図表2)
- ◆ 6月のユーロ圏の若年層失業率は23.9%、ギリシャ(4月)、スペイン(6月)は50%超とまだ高い水準にあります。また、2012年のユーロ圏の財政収支対GDP比率は-3.7%、ギリシャ、スペインについては、-10%以上と緊縮財政が必要とされる状況にあります。(図表3)
- ◆ ECBの低金利政策が継続し、ユーロ圏の景気は緩やかな回復を辿りつつあります。景気回復に伴い、株式市場も緩やかに上昇するものとみられます。(図表4)

【図表3: ユーロ圏の若年層^{※1}失業率と財政収支/GDP比率】



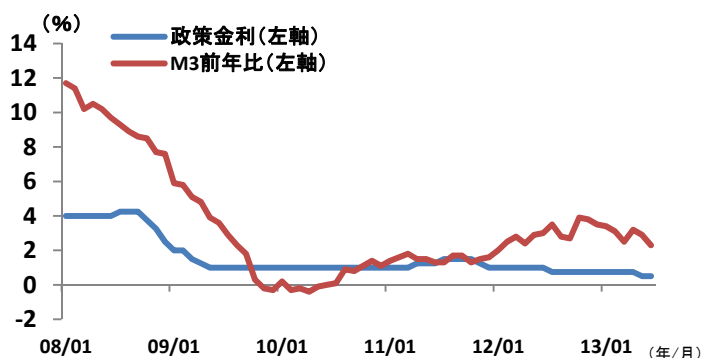
(注1) 若年層とは、15歳から24歳までを指します。ギリシャは2013年4月、他は6月のデータ。



(出所: 図表1～4はいずれもブルームバーグ、EUROSTAT、ECBのデータよりニッセイアセットマネジメントが作成)

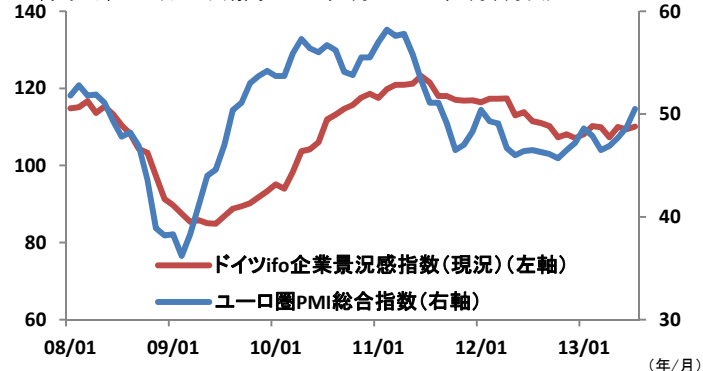
【図表1: ユーロ圏の金融政策】

(データ期間: 2008年1月～2013年6月、月次)



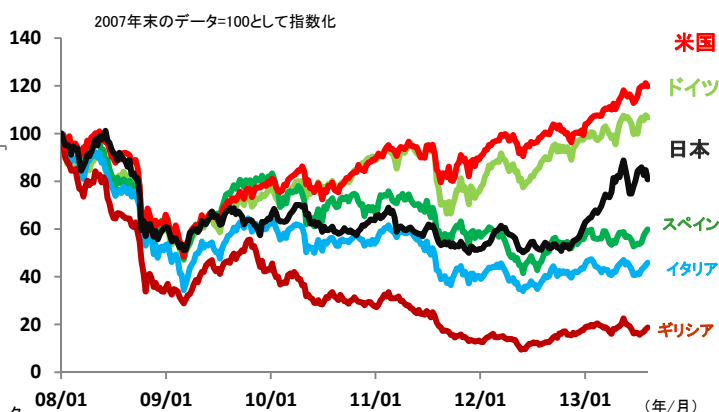
【図表2: ユーロ圏の景況感】

(データ期間: 2008年1月～2013年7月、月次)



【図表4: ユーロ圏の株価指数の推移】

(データ期間: 2008年1月第1週～2013年8月第2週、週次)



当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

〈審査確認番号H25-TB42〉